

評価対象	羅 針 盤		方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①各科の授業や探究学習(総合的な探究の時間/課題研究/介護総合演習)において、思考し自己決定し行動する活動に取り組んだと回答している生徒が80%以上である。	・生徒自らが自己決定できる授業を職員研修等を通して検討し、実践する。 ・探究活動についても、生徒自らがテーマを決定し解決に向けて活動させる。	B	B	B	本校生徒が、昨年度、一昨年度に引き続き、探究学習に積極的に取り組んでいる様子が見受けられる。外部との連携を強化し、生徒が自己決定し行動する活動の創出と取組の充実に向けて改善をしていきたい。	・80%以上は評価できる。 ・一昨年度から継続して探究学習を実施していることを高く評価したい。更に各々の積極性を伸ばせるような仕掛けが作れるといい。 ・「やりがい」は何よりの原動力となるので、生徒さん自身でぜひ見つけてほしい。活動を「自分ごと」に感じようなきっかけを学校地域が提供できたら良い。
		②授業以外の本校の教育活動(学校行事・部活・委員会等)に参加し、やりがいを感じたものがあると回答した生徒が80%以上である。	・学校行事等への主体的・積極的・責任ある取組を促し、自己有用感を育む。 ・創意と活力のある部活動により、達成感・充実感を育む。	B	B	B		
	2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	③普通科では、基礎学力向上のため、各種資格・検定等の受検を積極的に呼びかけ、漢検および英検2級合格者10名、準2級合格者20名程度を目標とする。	・実社会での資格の評価を説明し有効性を説く。 ・入試や入学に際して優遇される点を具体的に認識させる。 ・合格に向けた指導や補習等を充実させ、粘り強く取り組ませる。	C	C	C	本年度は英検は文化祭との兼ね合いで学校で実施できないケースもあり、例年より受験者数が減少した。また、合格者数も例年より低い結果となった。次年度以降も資格取得の意義について授業等で説明し積極的に受験を促すとともに試験対策を充実させていきたい。	・資格取得については、少し物足りない。啓発活動に力を注いでほしい。 ・資格取得のメリットを知らせ、積極的に資格取得できるように、より働きかけていくことが重要ではないか。 ・引き続き資格を持つことの有用性を周知していくべきだと感じる。また、それぞれの資格の将来性についても更にも補足して説明し、生徒の本気度を向上させられることが理想である。
		④生物生産科では、年間1つ以上の資格の取得を目指し、卒業までに3つ以上の資格を取得することを目標とする。	・資格取得が進路の選択や実現につながることを理解させる。 ・担任や教科担当などと連携して動機づけに努める。 ・資格取得の指導体制を充実させる。 ・学科に関わる資格だけでなく、他の資格取得についても積極的に取得できるように指導する。	C	C	C		
3 地域の小・中学校や企業・団体と連携していますか。	⑦学科の特長を活かした体験実習、地域や関係機関、教育機関等との連携・交流活動を実施する。	⑤環境工学科では、1年生は年度内に資格を1つ以上取得する。2年生は測量士補と2級土木施工管理技術検定の合格率をそれぞれ40%以上とする。3年生は測量士の合格者を1名以上とし、測量士補と2級土木施工管理技術検定の両方を保有している者の割合を30%以上とする。	・職業に関する国家資格取得の意義を理解させ、主体的に資格試験に挑戦するよう指導する。 ・Chromebookを用いた資料の提示やClassroomを活用して授業の質を向上させる。 ・実践的な内容となるよう学科内で意識を統一する。 ・対策補習については、動画を活用し生徒が自分の習熟度に応じて自ら教材を選び学べる体制を整える。	C	C	C	1年生は計算技術検定で合格者が70%にとどまった。漢字や英語の検定にもよるが、目標は達成できない見通し。2年生については土木施工は複数合格したものの、測量士補試験については3名に留まった。3年生は測量士の合格者はいなかった。全体補習を減らし課題と動画学習を導入したが、生徒により取り組みに差がある。来年度以降は、学習環境を整えた上で生徒が取組む方策を工夫すると共に、インターンシップ等を通して資格の重要性を伝え実感させることも重要であると捉えている。	
		⑥福祉科では、1年時より段階的に社会福祉・介護福祉検定に挑戦させ、1年生は3級、2年生は2級、3年生は1級合格を目標とする。3年生では介護福祉士国家試験(1月)に全生徒が合格できるようにする。	○社会福祉・介護福祉検定の1~4級に段階的に取り組み、福祉の学びを深める。 ○介護福祉士国家試験受験資格を取得できる教育課程を設定し、福祉の学びを深め、卒業時に介護福祉士を取得できるよう指導する。	C	C	C		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑧各学科における生徒の実態を踏まえて、到達度を見通すことができる学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が65%以上である。	・生徒の知識・技術の深化、コミュニケーション能力の向上が図られるよう事前準備、事後指導等を行い実践する。	B	C	B	普通科の総合的な探究の時間、生物生産科植物科学コースの出前授業や動物コースのふれあい動物園、環境工学科の関係業者等による講義や講習、福祉科の校外実習や外部講師授業などを実施することができた。 各科の制約がある中、積極的に連携できたと考えられる生徒が18~26%、それほどでない生徒が51~56%であった。少ない回数でも当初の目的が多く多くの生徒にとって果たせるよう、各科で準備を充実させていく必要があると思われる。	・よく頑張っていると思う。 ・引き続き地域に開かれた学校であってほしい。それが今後の吾妻中央高校を支える基盤になると強く思う。
		5 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑨単位未修得者の割合は、全体の3%以下である。	・生徒の実態に応じた授業展開やクラス編成を工夫する。 ・資格取得、検定、進学に対応した補習等を放課後や長期休業を利用して充実させる。	B	B		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	6 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑩生徒に対する指導等の情報について、学年や学校全体で共有し、適切な指導ができていると認識している職員が80%以上である。	・生徒の指導に関する職員研修を定期的に実施する。 ・学年会議、生徒指導部会議、企画委員会、職員会議等で必要な生徒情報について共有できる機会を設ける。	B	B	B	生徒アンケートの「資格取得や進学に対して、個人のニーズに合った学習の取り組みが行われていますか」という質問に対して90%の生徒が「はい」、「どちらかといえばはい」と解答している。また生徒アンケートの「あなたは高校入学後、資格や検定(英検や級位検定など)を何回取得しましたか」という問いに関して6割の生徒が1個以上の検定を取得したと回答した。各科の特色や生徒の進路に応じた選択科目を幅広く展開し、他々の希望に合うような取り組みを行うことができた。生徒に各科目の必要性を感じさせられるような授業や課題を工夫することが必要であると考えられる。 家庭学習をほとんどしていないと答えた生徒の割合が90%で、昨年とほぼ変わらない数値となっている。成績不振の生徒の数は8%と昨年度より増加したが、長期休暇を利用した指導でほぼ解消されている。テストの点数だけでなく生徒が身に付けるべき能力に応じた評価方法を工夫し意欲を高めていく必要があると考える。	・90%が「はい」と回答していることは評価すべきではないが、 ・生徒個人個人に寄り添った指導ができていると感じる。さらなるフォローアップに期待する。
		7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑪いじめや学校生活の悩み、問題等を、学校の教職員等に伝えやすいと認識する生徒が80%以上である。	・学校生活アンケートを定期的に実施する。 ・計画的な二者面談や三者面談だけでなく、機会を捉えて積極的に面談を行う。 ・教育相談通信の配布、外部の相談窓口の紹介等、生徒および保護者に向けた情報発信を積極的に行う。 ・積極的にスクールカウンセラーにつなげる。	C	C		
	8 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫定期検診の再検診対象で未受診の生徒が30%未満である(特に歯科と眼科)。視力や姿勢などの健康面を意識してスマホやクロームブックを活用している生徒が75%以上いる。	・将来にわたって健康な身体を維持する大切さを、保健委員活動や保健便りなどで伝える。 ・再受診の重要性と早期治療の有効性について、保健行事や三者面談で直接伝える。 ・昼食後の歯磨きや休み時間の目体操などを紹介し、将来継続的に健康を維持する姿勢を意識づけるような生徒の活動を実施する。	C	B	C		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	⑬学校での進路学習に対する高い満足度を持つ生徒の割合が80%以上である。	・各種検査の実施や目的を明確にした進路ガイダンスを学期ごとに開催する。 ・インターンシップ、オープンキャンパス、探究活動等の参加・体験を推奨する。	B	C	C	高学年になるほど満足度は高い傾向にある。また、まだ具体的なガイダンスをしていない低学年生徒でもオープンキャンパス等に参加する生徒もおり、進路通信やガイダンス等を通して進路意識が高まっていると思われる。保護者についても高学年の保護者は進路により高い関心を持っているようだ。進路に関しては生徒、保護者、学校が連携していく必要があり、進路行事や面談等の充実を通して、早期に実現に向けての取り組みができるようにして、よりよい進路選択の支援をしていきたい。	・進路指導については、それぞれが明確な目標を持てるようにしたい。 ・現状を維持しつつ、より多くの選択肢を生徒に提供できるための情報収集等が必要である。地域でのインターンシップなども将来を具体的に想像させるために有効である。それによって進路の選択肢が増える可能性もある。
		10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑭進路希望を明確にして努力している生徒が80%以上である。	・ポートフォリオへの取り組みやフォースイト手帳を使った振り返り活動を充実させる。 ・各定期考査期間に家庭学習時間調査を行うことで進路実現に向けての学力向上を促す。 ・進路ガイダンスや進路通信、掲示物等を効果的に示すことで、最適な時期に最適な情報を伝えていく。	C	C		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑮「学校の様子が分かる」と評価する保護者が80%以上となるよう、各学科の写真を新しくし、日頃の学校行事や各科の情報発信を行う。	・ホームページの写真を新しいものに更新して行く。 ・ホームページの更新を定期的に行い、学校の様子や生徒の活躍について保護者や地域に発信する。 ・情報配信のデジタル化を進める。	B	B	B	アンケートにおいてHPを通して、学校の様子が「だいたいわかる」と答えた保護者はR5年度の69%から79.7%となった。HPを通して学校の様子がある程度保護者に伝えることができた。今後は地域住民や中学生に向けても、わかりやすい情報提供を続けていきたい。	・情報発信については比較的上まできていっているように感じられる。 ・HPを更新したことを保護者にメールでも知らせて、多くの人が閲覧してくれるように工夫してみたい。 ・HPに対する満足度が向上した点について評価したい。より地域にわかりやすい情報を届けたい。
		12 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯LMS(スタディサプリやClassroom)を利用した授業や課題の発出を行っている教諭が75%以上である。	・ICT活用した授業の事例を共有する。 ・利活用についての職員研修を実施する。	B	B		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰担当している授業や分掌等(部活動や外部との連絡・連携を含む)において、ICTを活用して業務改善に取り組んだと回答する職員の割合が75%以上かつ、本校がICTを「積極的に活用している」と回答する保護者が60%以上である。	・ICTを活用した業務改善と方策のアイデアを出すように促す。 ・保護者に向けてICTの活用を意識した働きかけを行う。	C	B	B	「十分に活用できた」が33.3%、「活用できた」が62.5%であり、LMSを活用した指導が多くの場面で行われている。教諭による教育デジタル化を進めるとともに、生徒が情報をキャッチし活用する能力を伸ばすことも必要であると考えられる。	・ICT活用についてはその進歩に含ませて常に職員研修が求められるように感じられる。 ・ICT教育のメリットを感じられるように引き続き尽力していきたい。